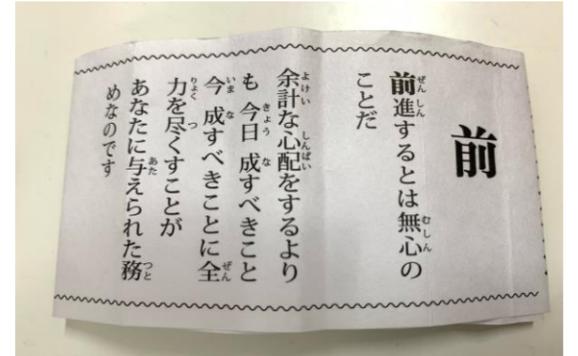


はじめのいっぽ

令和3年度
9月号

令和3年8月31日
認定こども園
東野田ちどり保育園
東野田ちどりキッズ・庁舎内
江川 永里子

我々に「今」出来る事と問いながら1年半過ごして来ました。
第5波!!子ども達にもデルタ株が猛威を奮っています。都島区内においても
保育園が軒並み休園となっています。
長引くコロナ禍の中で、対策をしながら「前」に進んでいこうと思います。



～ アドラー より ～

子どもの課題に口を出す弊害

子どもから頼まれもしないのに、親が子どもの課題に介入して口を出すと、次のような弊害がおこるかもしれません。

1, 自信を失う

子どもは、「親が手伝ってくれたから課題は解決できたけれど、もし手伝ってくれなかったら、自分ひとりでは解決できなかったんじゃないか」と感じるかもしれません。そういう体験がくり返されるうちに、「自分ひとりで人生の問題を解決する能力がないんだ」と思い込んでしまっ、自信を失うかもしれません。これでは<自立する>という子育ての目標が達成できなくなってしまいます。

2, 依存になる

子どもは、「なんだ、自分で考えなくても、親がかわりに考えて、課題を解決してくれるじゃないか」と感じるかもしれません。そうすると、いつでも「私にはできない。かわりに解決して!」と、依存になってしまうかもしれません。これまた<自立する>という子育ての目標から遠ざかってしまいます。

3, 反抗的になる

積極的なタイプの子どもは、「自分でできるんだから、余計なおせっかいをしないでくれ」と感じて、反抗的になるかもしれません。そうすると、ほんとうに親や他の人の援助が必要なときでも、むきになってひとりで課題を解決しようとして、かえって失敗することだってあるかもしれません。また、他の人と調和して暮らしていくことが苦手になるかもしれず、そうすると、<社会と調和して暮らす>という子育ての目標が達成できなくなります。

4, 失敗を人のせいにするようになる

課題がうまく解決できればいいのですが、解決できなかったとき、あるいは「親が手を出さうまういかなかった」と言ってみたり、あるいは「親が手伝ってくれないからうまういかなかったんだ」と言ってみたりして、失敗を人のせいにして、自分で責任をとろうとしなくなるかもしれません。

5, 親が忙しくなる

不必要な手伝いをしていると、ひどく忙しい生活になってしまいますよ。